

**2024 年度  
サマーレビュー  
協議事項一覧**

2024年度サマーレビュー【協議事項一覧】5部局6案件

1 デジタル・スマートシティ推進部

No.	所管課	事項名	方向性の提案	議論する事項	結果
1	デジタル・スマートシティ推進課	浜松市DX2.0-「デジタルのチカラ」で組織文化と仕事を元気に変えるデジタル変革人材の育成・確保	浜松市が求めるデジタル人材を「自分のまわりや他の部局の職員に、余力、考える時間、変える気力を、『デジタルのチカラ』を活用して生み出すことのできる人材」と定義し、育成・確保を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>DXメンター育成事業の継続</li> <li>更に高度な知識とスキルを習得させるDXコア人材の育成、活用</li> </ul>	提案どおり進める
2	情報システム課	システムネットワーク及び行政経営基幹システム(コア)再構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>セキュリティを十分に確保するとともに職員にとって利便性の高い機器利用環境の稼働を実現するため、ネットワークの再構築を行う。</li> <li>ネットワークを再構築したうえで、新しい機器利用環境を踏まえたコアの再構築及びBPRを前提とした業務運用の見直しによる行政事務の全体最適化を達成する。</li> </ul>	<p>【システムネットワーク】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次期「総務省情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」に記載される「α'モデル」への移行(コア系から特定の通信先に対してのみインターネット通信を許可)</li> <li>端末管理サーバの導入</li> <li>コア系端末の無線LAN化</li> <li>仮想化技術導入の検討</li> <li>ファイル伝送サービスの導入</li> </ul> <p>【行政経営基幹システム(コア)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトチームでの議論について</li> <li>新たなサービスへの乗り換えがしやすい個別システム群を疎結合する仕組みを見据えた検討</li> <li>原則システム標準機能での運用へ見直し</li> </ul>	提案どおり進める

2 市民部

No.	所管課	事項名	方向性の提案	議論する事項	結果
1	UD・男女共同参画課	“女性に選ばれるまち”プロジェクトについて	女性の心に向き合う政策を推進し、「女性に選ばれるまち」を目指すことにより、女性の転出超過及び人口減少の抑制を図る。	<p>女性が生き生きと輝き、暮らしやすいWell-Beingな環境を整備するために行う事業の是非</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>女性に関する情報を集約したポータルサイト構築</li> <li>困難女性に特化したSNS相談業務</li> <li>女性が働きやすい職場づくり事業費補助金の創設 など</li> </ul>	提案どおり進める

3 産業部観光・ブランド振興担当

No.	所管課	事項名	方向性の提案	議論する事項	結果
1	観光・シティプロモーション課	海外の高付加価値旅行者を対象とした受入環境の整備に向けて	海外からの高付加価値旅行者の受け皿となる旅行商品の開発・販売を通じて、地域の観光消費額増加を図る。	<p>受入環境の整備に向けた取組について(R6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インバウンド受入機運の醸成</li> <li>専門家による地域の観光資源の再整理と商品選定</li> </ul> <p>(R7)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>商品の磨上げ、モニターツアー、ガイド養成</li> <li>販売ルートの整備、エージェントセールス</li> </ul>	提案内容を一部見直しして進める

4 土木部

No.	所管課	事項名	方向性の提案	議論する事項	結果
1	道路企画課	次期「浜松市のみちづくり計画」の策定について	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係所属長等による庁内検討会を設置し、計画を検討。</li> <li>学識経験者などの有識者から意見を伺い、検討を進める。</li> <li>9月議会において計画案、2月議会においてパブリックコメントにおける意見の回答について報告予定で、特別委員会及び建設消防委員会の両委員会を視野に入れて調整中。</li> <li>パブリックコメントは10月から11月に実施予定。</li> </ul>	次期「浜松市のみちづくり計画」の策定方針について	提案どおり進める

## 5 学校教育部

No.	所管課	事項名	方向性の提案	議論する事項	結果
1	教育総務課 健康安全課	大規模地震や荒天時における学校の対応について	<p>【児童生徒の下校・留め置き基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として速やかに下校させる。</li> <li>・震度5弱以上の地震や下校時に危険が伴う悪天候により保護者への引き渡しが困難な時は、児童生徒を学校に留め置く。</li> <li>・2025年4月以降、当該判断基準等を追加した「危機管理マニュアル（改正版）」を施行し、学校用非常食が配備できた学校から運用する。</li> </ul> <p>【学校用非常食の公費配備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年9月～11月補正（債務負担行為設定）、2025年度当初予算要求</li> <li>・2025年5月末 各学校への配備終了</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の市避難所用非常食（アルファ化米）の個食化。</li> <li>・新たに個食の学校用非常食（米粉クッキー）の配備。</li> <li>・学校用非常食から消費し、長時間にわたる場合は市避難所用非常食を消費する。</li> </ul>	提案どおり進める

# サマーレビュー協議事項調書

1 部局名 (課名)	デジタル・スマートシティ推進部 (デジタル・スマートシティ推進課)
2 協議事項 (案件名)	浜松市 DX2.0ー「デジタルのチカラ」で組織文化と仕事を元気に変えるデジタル変革人材の育成・確保
3 背景・現状 (現状把握 できる統計 数値など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>2023年12月、総務省が26年ぶりに「人材育成・確保基本方針策定指針」を改訂し、4つの柱の1つに「デジタル人材の育成・確保」を明記した。</li> <li>2024年6月に閣議決定された「デジタル社会の実現に向けた重点計画」及び同月デジタル行財政改革会議が決定した「デジタル行財政改革取りまとめ2024」において、健康・医療・介護、こども、教育、モビリティなど各分野におけるDXの推進が掲げられた。</li> </ul>
4 検討経過・ 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>2023年1月に「浜松市DX推進計画」を策定し、「LGX推進に向けた組織・職員意識の変革」を掲げ、DXメンターの育成を実施してきた。</li> <li>庁内のDX推進を支えるデジタル人材として、3年間で75名のDXメンターを庁内公募により育成してきたが、今後見込まれるデジタル人材の需要に対して、質・量ともに不足することが予想される。</li> <li>現DX推進計画の計画年度が2024年度で終了することから、2025年度から5年間の新計画を策定し、新たなデジタル人材の育成・確保策を示す必要がある。</li> <li>現在、デジタルを活用した業務改革において、デジスマ推進課が、主体的に取組を進めるべき業務所管課に大きく介入し、伴走型で支援を実施している。</li> </ul>
5-1 方向性の 提案 (目 指すべき 姿)	<ul style="list-style-type: none"> <li>浜松市が求めるデジタル人材を「自分のまわりや他の部局の職員に、余力、考える時間、変える気力を、『デジタルのチカラ』を活用して生み出すことのできる人材」と定義し、育成・確保を図る。</li> </ul>
5-2 上記の方 向性決定 に向け議 論する事 項 (妥 当性、必 要性、有 効性 など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>2024年度までの計画で実施していたDXメンター育成事業を継続し、2025年から5年間で新たに100名のDXメンターを育成する。</li> <li>さらに、DXメンターから選抜した職員に更に高度な知識とスキルを習得させることで、5年間で約10名のDXコア人材を育成する。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>DXメンター育成事業 (継続) 取得を目指す資格：基本情報技術者、ITパスポートなど</li> <li>DXコアメンバーの育成 (新規) 取得を目指す資格：応用情報技術者、DATA Saber、AI Practitioner、Cloud Practitioner など</li> <li>DXコアメンバー等の活用 DXコアメンバー及びDXメンターの一部をデジスマ課に配属させ、デジスマ課職員として各所属のDXプロジェクトの伴走支援を実施。</li> </ol>

6 結果	<input checked="" type="checkbox"/> 提案どおり進める <input type="checkbox"/> 提案内容を一部見直して進める <input type="checkbox"/> 再度、調査研究等を行い検討 <input type="checkbox"/> その他	具体的内容
7 その他		

# サマーレビュー協議事項調書

1 部局名 (課名)	デジタル・スマートシティ推進部 (情報システム課)
2 協議事項 (案件名)	システムネットワーク及び行政経営基幹システム (コアら) 再構築
3 背景・現状 (現状把握できる統計数値など)	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現行の接続ネットワーク (番号系・コア系 (LGWAN 系)) で利用している機器が、令和 8 年度末でリース満了となるため、機器のリース満了までにネットワークの再構築を実施する必要がある。</li> <li>・ 現行コアらの導入 (平成 21 年) から 15 年が経過し、日進月歩で進化するデジタル技術や多様化する制度・サービスに対応できず、全庁の業務効率化の推進を阻む一因となっている。(例: 電子請求、電子契約、オンライン入札参加資格申請、eL-QR、会計年度任用職員の管理など)</li> </ul> <p>【現状】</p> <p>&lt;ネットワーク&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在の庁内ネットワークは総務省「地方公共団体における情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」に記載されている「<math>\alpha</math> (アルファ) モデル」となっており、番号系、コア系 (LGWAN 系)、インターネット系に 3 層分離している。</li> </ul> <p>&lt;コアら&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現行システムは、ベースシステム (富士通 IPKNOWLEDGE) に浜松市向けのカスタマイズを加えているため内部構造が複雑・不明瞭になり、改修費用や保守運用にかかる費用が非常に高額になっている。</li> </ul>
4 検討経過・課題	<p>&lt;ネットワーク&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 番号系、コア系 (LGWAN 系) の端末は全て有線 LAN でネットワーク接続されており、年度末人事異動に伴う各課のレイアウト変更が大きな作業となっている。</li> <li>・ マイクロソフトオフィスが端末 1 台 1 ライセンスではなく、ユーザー 1 人 1 ライセンスへと販売形態が移行してきており、ライセンス認証のためのインターネット接続および端末管理サーバの導入が必要となる。</li> </ul> <p>&lt;コアら&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和 6 年 7 月に、プロジェクトオーナーを山名副市長とする庁内検討体制 (プロジェクトチーム) を設置。</li> <li>・ プロジェクトチームにてシステム情報収集および現状の業務要件を整理し、新システムの調達、構築の方針を検討する。</li> <li>・ 令和 9 年に稼働する予定で調達準備を進める。</li> </ul>
5-1 方向性の提案 (目指すべき姿)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ セキュリティを十分に確保するとともに職員にとって利便性の高い機器利用環境の稼働を実現するため、ネットワークの再構築を行う。</li> <li>・ ネットワークを再構築したうえで、新しい機器利用環境を踏まえたコアらの再構築及び BPR を前提とした業務運用の見直しによる行政事務の全体最適化を達成する。</li> </ul>

<p>5-2 上記の方向性決定に向け議論する事項（妥当性、必要性、有効性など）</p>	<p>&lt;ネットワーク&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度改訂予定の総務省「地方公共団体における情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」に記載される「α'（アルファダッシュ）モデル」へ移行する。現状のコア系から特定の通信先に対してのみインターネット通信を許可（ローカルブレイクアウト）することで、マイクロソフトオフィスのライセンス認証を可能とする。また、安全なクラウドサービスが利用可能となることを見込む。</li> <li>・端末設定管理やマイクロソフトオフィスのライセンス管理のため、端末管理サーバを導入し、統一的な端末管理を可能とする。</li> <li>・コア系端末は無線LAN対応端末へ更新して可能な限り無線LAN化を実現し、同一施設内であれば会議室等でもネットワーク利用可能とする。人事異動等に伴うレイアウト変更作業の負荷を低減し、毎年の工事請負費の減も見込む。</li> <li>・インターネット系をコア系端末から安全に接続するための仮想化技術の導入についても検討する。</li> <li>・番号系・コア系間でのデータ伝送のログを残すことができるファイル伝送サービスを導入し、番号系のUSB利用は禁止することでセキュリティ向上を図る。</li> </ul> <p>&lt;コアら&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度は、現行システムの業務所管課（人事課、財政課、会計課等）が参加するプロジェクトチームにて、以下の事項を議論し決定する。             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各業務を効率的に行うためのシステム要件整理と事務の再設計</li> <li>(2) 各業務におけるシステムの情報を収集し、想定する事務運用に適合するシステム候補を抽出</li> <li>(3) 各業務のシステムに必要となるシステム間情報連携の整理</li> <li>(4) (1)～(3)に基づきシステム調達に必要な予算、調達仕様、構築期間を整理し、新システム稼働に向けたスケジュールと構築方針を決定</li> </ol> </li> <li>・新たなサービスへの乗り換えがしやすいよう、統合パッケージのような密結合ではなく、それぞれの業務目的を達成する個別システム群を疎結合する仕組みも見据えて検討する。</li> <li>・法改正対応や機能アップデート等の保守に対応するためのコストを極力抑制するため、原則システム標準機能で運用するよう事務運用の見直しを図る。</li> </ul>	
<p>6 結果</p>	<p>■提案どおり進める  <input type="checkbox"/>提案内容を一部見直して進める  <input type="checkbox"/>再度、調査研究等を行い検討  <input type="checkbox"/>その他</p>	<p>具体的内容</p>
<p>7 その他</p>		

# サマーレビュー協議事項調書

1 部局名 (課名)	市民部 (UD・男女共同参画課)
2 協議事項 (案件名)	“女性に選ばれるまちプロジェクト”について
3 背景・現状 (現状把握できる統計数値など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少は少子高齢化だけが要因ではなく、本市においては若い女性の転出超過も大きな要因の一つである。</li> <li>・本市の総人口の女性比率は、政令指定都市で下から3番目に低く、15-29歳の女性比率が最も低い(2020年:47.5%)。また、20-24歳では男性が転入超過であるのに対し、女性は転出超過である。</li> <li>・2023年度からシャープ(株)と共同で、防災備蓄品を活用した生理用ナプキンのディスペンサー設置の社会実装に向けた実証実験を開始。</li> <li>・2024.4.1「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」の施行。</li> </ul>
4 検討経過・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度 はままつの「生理」を学ぶプロジェクトにおいて、市民アンケートや若年層等との意見交換を実施。</li> <li>・2022年度 ミモザプロジェクトにおいて、女性職員を中心としたプロジェクトチームを発足し、女性特有の体の悩みや職場での理解不足などの課題解決を図った。</li> <li>・2023年度 ミモザプロジェクトの延長として、男性職員も含めて庁内組織活性化研修を実施。</li> <li>・2024年度 官民連携で推進するため、政策トライアル推進事業を活用し、市内企業等に女性に選ばれる地域づくりに関する意識調査を実施中。</li> <li>・若い女性が進学等で転出し、浜松市に戻ってこないことが一番の課題。</li> <li>・「女性に優しい、暮らしやすいまち」を推進することで、一度転出しても、また浜松市に戻りたいという意識を醸成する必要がある。</li> <li>・持続的な都市経営・地方創生の観点から、全ての部局において男女共同参画の視点で女性を意識した施策を展開していくことが必要。</li> <li>・庁内関係課(危機管理課、企画課、広聴広報課、産業振興課、スタートアップ推進課、市民協働・地域政策課、こども若者政策課 等)と連携を強化し、横断的に事業を実施する必要がある。</li> </ul>
5-1 方向性の提案 (目指すべき姿)	女性的心に向き合う政策を推進し、「女性に選ばれるまち」を目指すことにより、女性の転出超過及び人口減少の抑制を図る。
5-2 上記の方向性決定に向け議論する事項 (妥当性、必要性、有効性など)	<p>女性に選ばれるまちプロジェクトとして、女性が生き生きと輝き、暮らしやすいWell-Beingな環境を整備するために行う下記事業の是非。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(情報) 女性に関する情報を集約したポータルサイト構築</li> <li>・(生活) 生理用ナプキンディスペンサーの公共施設への設置拡充</li> <li>・(職場) 女性が働きやすい職場づくり事業費補助金の創設</li> <li>・(啓発) 企業向け啓発セミナー(女性働きやすい環境、女性健康問題)</li> <li>・(相談) 困難女性に特化したSNS相談業務</li> <li>・(育成) 働く女性のためのリスキリング講座(デジタル人材育成)</li> <li>・(起業) 女性に特化した起業支援セミナー</li> </ul>



6 結果	<input checked="" type="checkbox"/> 提案どおり進める <input type="checkbox"/> 提案内容を一部見直して進める <input type="checkbox"/> 再度、調査研究等を行い検討 <input type="checkbox"/> その他	具体的内容
7 その他		

# サマーレビュー協議事項調書

1 部局名 (課名)	産業部観光・ブランド振興担当 (観光・シティプロモーション課)	
2 協議事項 (案件名)	海外の高付加価値旅行者を対象とした受入環境の整備に向けて	
3 背景・現状 (現状把握できる統計数値など)	<p><b>【背景】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アフターコロナと円安の影響で国内のインバウンド需要が急増</li> <li>・客単価が高く、長期滞在傾向にある欧米豪の来日傾向が強い</li> <li>・観光庁では、訪日旅行1回あたりの総消費額1人100万円以上の旅行者を「高付加価値旅行者」と定義</li> </ul> <p><b>【現状】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内において、既存ホテルが富裕層向けにリブランディングを図る動きが加速(グランドメルキュール、マリオット等)</li> <li>・本地域の1人1回あたりの観光消費額は、他の地域に比較して安価であり富裕層向け体験商品が不足している(全観光圏平均39,031円、本地域21,395円)</li> </ul>	
4 検討経過・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年東京オリパラに向けて、国事業でインバウンド向け滞在型旅行商品の造成を実施したが、コロナにより中断</li> <li>・令和2年度、市内の宿泊・体験商品を紹介する多言語HP”Through Hamamatsu, meet Japan“(8言語)を整備</li> <li>・(公財)浜松・浜名湖ツーリズムビューローで、静岡県「令和6年度インバウンド県内周遊コースの商品化・販売促進事業」を活用し、1泊2日100万円以上の2コースの商品開発中</li> </ul>	
5-1 方向性の提案 (目指すべき姿)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外からの高付加価値旅行者の受け皿となる旅行商品の開発・販売を通じて、地域の観光消費額増加を図る。</li> </ul>	
5-2 上記の方向性決定に向け議論する事項 (妥当性、必要性、有効性など)	<p>高付加価値旅行者の受入環境を整備するため、以下の事業を実施することの妥当性</p> <p>&lt;想定予算額&gt; 15,000千円</p> <p><u>令和6年度</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インバウンド受入機運の醸成(セミナー、先進事例の紹介)</li> <li>・専門家による地域の観光資源の再整理と商品選定</li> </ul> <p><u>令和7年度</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商品の磨上げ、モニターツアー、ガイド養成</li> <li>・販売ルートの整備、エージェントセールス</li> </ul>	
6 結果	<input type="checkbox"/> 提案どおり進める <input checked="" type="checkbox"/> 提案内容を一部見直して進める <input type="checkbox"/> 再度、調査研究等を行い検討 <input type="checkbox"/> その他	<p>具体的内容</p> <p>市内のインバウンドに関する基礎データ等を再整理し、正しくターゲットを絞った上で事業に着手すること。</p>
7 その他		

# サマーレビュー協議事項調書

1 部局名 (課名)	土木部 ( 道路企画課 )
2 協議事項 (案件名)	次期「浜松市のみちづくり計画」の策定について
3 背景・現状 (現状把握で きる統計数 値など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在の「浜松市のみちづくり計画」は、平成 29 年度から令和 8 年度までの 10 年計画であり、今年度は策定から 8 年目となる。</li> <li>・ 近年、自然災害の激甚化・頻発化により、本市においても道路災害が多発しており、災害に強い道路ネットワーク機能の強化が必要。</li> <li>・ 人身交通事故件数は、現計画策定時（平成 29 年度）から 4 割程度減少したものの依然として、政令指定都市人口 10 万人当りの人身交通事故件数は、ワースト 1（14 年連続）。</li> <li>・ 橋梁耐震対策は第 1 期計画である 104 橋の内 100 橋が対策完了だが、第 2 期計画である 257 橋は 21 橋のみ対策完了（令和 5 年度末時点）。 ※現みちづくり計画（平成 29 年度～令和 8 年度）では、15 橋の耐震化を計画しており、うち 14 橋を令和 5 年度末までに完了する計画であったが、3 橋について未完了の状況。</li> <li>・ 道路斜面对策は、要対策箇所 177 箇所のうち 91 箇所が対策完了（令和 5 年度末時点）。</li> <li>・ 維持管理は、橋梁などの法定 5 施設の 1 巡目点検において判定Ⅲ・Ⅳの措置が全て完了し、2 巡目点検におけるⅢ・Ⅳ判定の措置も約 5 割が措置完了（令和 5 年度末時点）。</li> <li>・ 上記のように、道路を取り巻く環境が変化しており、今後の道路のあり方を見直す必要性が高まったことに加え、上位計画である浜松市総合計画次期基本計画が令和 7 年度から開始することを加味し、2 年前倒して次期「浜松市のみちづくり計画」を策定することとなった。</li> </ul>
4 検討経過・ 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上位計画となる浜松市総合計画次期基本計画が策定中かつ、第 5 回西遠都市圏パーソントリップ調査が実施中であるため、本計画の検討においては、それぞれの計画・調査の情報を把握し、整合を図る必要がある。</li> <li>・ 今後の道路事業における必要事業費については、増加に転じることも考慮した上で、必要な事業を見極めていく必要がある。</li> </ul>
5-1 方向性の 提案（目指 すべき姿）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係所属長等による庁内検討会を設置し、計画を検討。</li> <li>・ 学識経験者などの有識者から意見を伺い、検討を進める。</li> <li>・ 9 月議会において計画案、2 月議会においてパブリックコメントにおける意見の回答について報告予定で、特別委員会及び建設消防委員会の両委員会を視野に入れて調整中。</li> <li>・ パブリックコメントは 10 月から 11 月に実施予定。</li> </ul>

<p>5-2 上記の方向性決定に向け議論する事項 (妥当性、必要性、有効性など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道路ネットワークの整備は、現計画の拠点間を移動しやすいみちづくりに加え、災害に強い道路ネットワークの強化の観点から方針を検討。</li> <li>・ 交通事故については、ワースト1脱出に向けて、ハード・ソフト両面からの方針を検討。</li> <li>・ 橋梁耐震化や道路斜面对策については、事業の加速化に向けた方針を検討。</li> <li>・ 維持管理においては、予防保全型へ本格転換するための方針を検討。</li> </ul>	
<p>6 結果</p>	<p>■提案どおり進める</p> <p><input type="checkbox"/>提案内容を一部見直して進める</p> <p><input type="checkbox"/>再度、調査研究等を行い検討</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>	<p>具体的内容</p>
<p>7 その他</p>		

# サマーレビュー協議事項調書

1 部局名 (課名)	学校教育部 (教育総務課・健康安全課)
2 協議事項 (案件名)	大規模地震や荒天時における学校の対応について
3 背景・現状 (現状把握で できる統計数 値など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校では「危機管理マニュアル」において災害ごとの対処基準を定めている。在校中に震度5弱以上の地震や下校時に危険が伴う悪天候の場合は、児童生徒を留め置き、以後の対応を検討する運用としているが組織的整備は不十分である。</li> <li>・児童生徒を学校に留め置く場合、学校管理下の扱いとして健康管理が学校の責務となるため、学校の実情に応じて児童生徒・教職員用非常食(以下、学校用非常食)を配備することとしている。 (144校のうち101校が学年費等の私費会計で配備、公費配備無)</li> <li>・20政令市のうち5市において非常食を公費で購入している。(別紙1)</li> <li>・学校には市避難所用非常食も配備されているが、50食単位のアルファ化米で、大規模地震等による避難者を想定したものである。</li> </ul>
4 検討経過・ 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難情報発令(特に避難指示、緊急安全確保)に伴う災害対応の経験が浅く、多くの学校が下校判断に苦慮している。 →児童生徒・教職員が相当の危険を負って下校させる実態もある。</li> <li>・学校用非常食の配備は学年費等の私費会計に依っているうえ、配備状況も各校で異なるため、その管理・更新は学校の負担になっている。 →学校が児童生徒を留め置く際の判断を鈍らせる可能性がある。</li> </ul>
5-1 方向性の 提案(目指 すべき姿)	<p><b>【児童生徒の下校・留め置き基準】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として速やかに下校させる。</li> <li>・震度5弱以上の地震や下校時に危険が伴う悪天候により保護者への引き渡しが困難な時は、児童生徒を学校に留め置く。</li> <li>・2025年4月以降、当該判断基準等を追加した「危機管理マニュアル(改正版)」を施行し、学校用非常食が配備できた学校から運用する。</li> </ul> <p><b>【学校用非常食の公費配備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年9月～11月補正(債務負担行為設定)、2025年度当初予算要求</li> <li>・2025年5月末 各学校への配備終了</li> </ul>
5-2 上記の方 向性決定 に向け議 論する事 項(妥当性、 必要性、有 効性など)	<p><b>【学校用非常食の必要性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒を留め置く場合は避難者用の主食を消費することとし、既存の市避難所用非常食(アルファ化米)を個食化して対応する。(危機管理課調整済、経費:差額@62×6食×2,406学級×4回×1.1=3,939千円)</li> <li>・消費しやすく、教職員等の作業負担が少ない個食の学校用非常食(米粉クッキー)を新たに配備する。(経費:@400×6食×2,406学級×4回×1.1=25,408千円) ※配備数の積算基礎は別紙2のとおり</li> <li>・学校用非常食から消費し(18時頃を想定)、長時間に亘る場合には市避難所用非常食を消費する(20時頃を想定)。</li> <li>・飲料水については市避難所用非常食から消費する(断水時等)。</li> </ul> <p><b>【学校用非常食を公費配備とする必要性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会管理にすることの効率性</li> <li>・全ての小中学校へ配備することの統一性</li> <li>・児童生徒を学校に留め置く場合、学校管理下の延長として、学校及び学校設置者は、児童生徒等の安全確保や危険等発生時における適切な対処についての措置を講じる必要がある。</li> </ul>

6 結果	<input checked="" type="checkbox"/> 提案どおり進める <input type="checkbox"/> 提案内容を一部見直して進める <input type="checkbox"/> 再度、調査研究等を行い検討 <input type="checkbox"/> その他	具体的内容
7 その他		